

令和5年度
発生予察情報

発生予報第1号（概要版）

令和5年4月14日発行
宮城県病害虫防除所
(TEL:022-275-8982)

作物名	病害虫名	発生予報	備考
水稲	ヒメビウンカ	発生量: やや少	
	ツマグロヨコバイ	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
麦類	オオムギ赤かび病	発生時期: 早い 発生量: 平年並	
	コムギ赤かび病	発生時期: 早い 発生量: 平年並	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
りんご	斑点落葉病	発生時期: 早い 発生量: やや多	
	リンゴハダニ	発生量: やや多	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
なし	黒星病	発生時期: 早い 発生量: 平年並	

作物名	病害虫名	発生予報	備考
うめ	かいよう病	発生量: やや少	
	黒星病	発生量: やや多	

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。
宮城県病害虫防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>
次回、発生予報第2号の発行日は4月27日(木)の予定です。

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所 メルマガ
トップページ 登録フォーム

ー5月下旬までの発生予報と防除のポイントー

すくい取り調査(畦畔):4月5～6日

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
ヒメトビウンカ	ー	やや少

予報の根拠

(1) 畦畔のすくい取り調査の結果、発生地点率は平年より低く、すくい取り虫数は平年よりやや少なかった。(/ー)

病害虫名	発生時期	発生量
ツマグロヨコバイ	ー	やや多

予報の根拠

(1) 畦畔のすくい取り調査の結果、発生地点率は平年並であったが、すくい取り虫数は平年より多く、例年発生が少ない成虫の発生が多く確認された。(/+)

※ すくい取り虫数が多かった地点は、多くが昨年8月中旬における本田のすくい取り調査でも発生が多かった地点であった。

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・ 昨年発生が多く見られたほ場では、それぞれに登録のある箱施用剤を施用する。
- ・ 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

(2) ヒメトビウンカ

- ・ 本虫が媒介するイネ縞葉枯病は発病後の防除が困難であることから、ウイルス保毒虫の防除が重要となる。特に、昨年の県内における保毒虫率は過去10か年で最も高かったため(病害虫防除所調査)、今後の発生動向に注意する。

(3) ツマグロヨコバイ

- ・ すくい取り調査の結果、一部地点で成虫及び幼虫が多く確認されたため、今後の発生動向に注意する。
- ・ イネ科植物で増殖するため、畦畔や周辺草地の草刈りを徹底する。

ー農薬の適正使用についてー

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』配信中★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和5年度 発生予察情報	発生予報第1号 ー麦類ー	令和5年4月 14 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	----------------------------

ー5月中旬までの発生予報と防除のポイントー

作況調査ほ:大崎市古川(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台4月 13 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオムギ赤かび病	早い	平年並

予報の根拠

- (1) 作況調査ほにおける「大麦」の幼穂の生育が平年より進んでおり、「シュンライ」では、平年と比較して出穂期が7日、開花期が5日早いと予測される(表1)。(ー/)
- (2) 向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(ー/)
- (3) 開花期前後の降雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
コムギ赤かび病	早い	平年並

予報の根拠

- (1) 作況調査ほにおける「小麦」の幼穂の生育が平年より進んでおり、「シラネコムギ」では、平年と比較して出穂期が6日、開花期が4日早いと予測される(表1)。(ー/)
- (2) 向こう1か月の平均気温は高いと予報されている。(ー/)
- (3) 開花期前後の降雨が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

表 1 出穂期・開花期の予測

麦種	品種	幼穂長(mm)		出穂期(月/日)		開花期(月/日)	
		本年	平年	本年見込み	平年	本年見込み	平年
大麦	シュンライ	35.4	14.3	4/18	4/25	4/27	5/2
	ミノリムギ	29.0	10.3	4/21	4/29	4/28	5/5
小麦	シラネコムギ	13.4	4.6	4/29	5/5	5/11	5/15
	夏黄金	14.6	5.1	4/28	5/6	5/9	5/15

※ 令和4年播種(令和5年産)麦類作況試験生育状況(4/10 現在、古川農業試験場)

※ 播種時期:令和4年 10 月中旬

※ 平年値は過去7か年の最高値と最低値を除いた5か年の平均値

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

- ・薬剤防除の適期は、1回目が開花始期～開花期、2回目はその7～10日後である。生育状況をよく観察し、適期を逃さないよう防除を行う。
- ・「夏黄金」の薬剤防除は3回を基本とし、3回目は2回目の7～10日後に実施する。
- ・「ホワイトファイバー」は「シュンライ」より出穂期が1～2日遅いので、1回目の防除のタイミングに注意する。
- ・赤かび病は開花期前後にかけて降雨が続くと発生が多くなるため、降雨が続く場合は晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・薬剤耐性菌対策のため、FRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
※FRACコード：殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものの。
(参考：農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/miyagi>

<参考> 出穂期（出穂率 40～50%）から開花期に達するまでの日数の目安

日平均 気温(℃)	大麦			小麦		
	開花始	開花期	開花終期	開花始	開花期	開花終期
10	8	11	14	14	19	24
13	6	9	12	11	15	19
15	5	7	9	9	12	15
18	3	5	7	6	8	10

- ・普及に移す技術第83号参考資料「麦類の出穂期を基準とした開花期予測」参照
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20262/69869.pdf>
- ・大麦は「シュンライ」「ミノリムギ」、小麦は「シラネコムギ」に適用

— 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム：<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー開花期～5月中旬の発生予報と防除のポイントー

巡回調査:3月8～10日

作況調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区气象台4月13日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	早い	やや多

予報の根拠

- (1) 作況調査ほにおける「ふじ」の開花期は、平年より17日早い(表1)。(－/)
- (2) 前年の発生量が平年よりやや多かったことから、伝染源量は平年よりやや多いと推測される。(/+)
- (3) 向こう1か月の平均気温は高く(－/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(±/±)

病害虫名	発生時期	発生量
リンゴハダニ	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、短果枝における越冬卵数は平年並であった。(/±)
- (2) 向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

表1 りんごの生育状況(作況調査ほ 4月13日現在)

品種	発芽期		展葉期		開花期		満開期	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
ふじ	3/20	3/31	3/27	4/12	4/12	4/29	－	5/4

※ 予報の根拠(発生時期/発生量)

発生時期…(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量…(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・本年はりんごの生育が平年より早く推移しているため、生育ステージに注意する。
- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は病害虫の発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

^{エフラック}
※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものの。

^{アイラック}
※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したものの。

(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

- DMI 剤(FRAC コード:3)、QoI 剤(FRAC コード:11)及び SDHI 剤(FRAC コード:7)並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- 薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>
- 果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)斑点落葉病

- 落花期頃にチウラム剤を散布する。赤星病、黒星病との同時防除を行う場合は、目的の病害に登録のあるDMI 剤又はDMI 混合剤を選択する。

(3)リンゴハダニ

- 本種は短果枝の周辺や芽基部、小枝の分岐部など、しわ状の木肌部分で卵越冬する。越冬卵量が多い園地では、早期から寄生密度が高くなる傾向にあるので注意する。
- 落花期は越冬卵から孵化した幼虫が出揃うので防除適期である。越冬卵の防除が不十分な場合は、この時期を狙って防除を行う。

—農薬の適正使用について—

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和5年度 発生予察情報	発生予報第1号 ーなしー	令和5年4月14日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	--------------------------

ー開花期～5月中旬の発生予報と防除のポイントー

作況調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)

天候予報:仙台管区气象台4月13日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	早い	平年並

予報の根拠

(1) 作況調査ほにおける開花期は平年に比べ「幸水」で13日、「豊水」で14日早い(表1)。

(- /)

(2) 前年の発生量が平年より少なかったことから、伝染源量は少ないと推測される。(/ -)

(3) 向こう1か月の平均気温は高く(- / +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(± / ±)

表1 なしの生育状況(作況調査ほ 4月13日現在)

品種	発芽期		展葉期		開花期		満開期		落花期	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
幸水	3/21	4/3	4/9	4/20	4/11	4/24	-	4/28	-	5/6
豊水	3/19	3/31	4/5	4/16	4/7	4/21	4/11	4/24	-	5/3

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (-):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)黒星病

- ・開花期前後は特に重要な防除時期である。開花直前から落花期頃に DMI 剤またはその混合剤を十分量散布し、10 日以上散布間隔をあけないようにする。
- ・本年は、作況調査ほにおいて平年に比べ「幸水」で13日、「豊水」で14日早く開花期を迎えており、子のう胞子の飛散も平年より早い時期より確認されていることから、防除適期を逃さないよう注意する。
- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・薬剤耐性菌対策のため、FRAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。本県では現在まで DMI 剤(FRAC コード:3)、QoI 剤(FRAC コード:11)、SDHI 剤(FRAC コード:7)の耐性菌は確認されていないが、今後もこれらの混合剤を含めた使用は、それぞれ年2回以内とする。

エフラック

※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)

- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。
- ・芽基部の黒色すす状の病斑(写真)は本病の一次伝染源となることから、園内をこまめに見回り見つけ次第摘み取って園外に持ち出すか、土中深く埋めるなど適切に処分し、伝染源量を抑える。



写真 芽基部病斑
※りん片が脱落しにくいので目印になる

— 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー4月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:4月6日

天候予報:仙台管区气象台4月13日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
かいよう病	ー	やや少

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、結果枝における発病は確認されなかった。(/ー)
- (2)本病は気温12℃前後で降雨が多い場合に発病が多くなり、向こう1か月の平均気温は高く(/ー)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)本病は気温20℃前後で降雨が多い場合に発病が多くなり、向こう1か月の平均気温は高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒しして降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤの防除では低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は病害虫の発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ※FRACコード:殺菌剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。
※IRACコード:殺虫剤の有効成分を作用機構別にグループ分けし、アルファベットまたは数字で表したもの。
(参考:農薬工業会ホームページ 農薬の作用機構分類 <https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)
- ・DMI剤(FRACコード*:3)、QoI剤(FRACコード:11)及びSDHI剤(FRACコード:7)並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- ・薬剤は『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/miyagi>
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)かいよう病

- ・第1次伝染源である潜伏越冬枝病斑を剪除する。
- ・生育期防除として抗生物質剤が有効である。ただし、使用時期(収穫前日数)に注意するとともに耐性菌が発生しやすいので注意する。
- ・発病部位が枝、葉、果実、花そうと多岐に及ぶので、薬剤は樹全体にムラがないように散布する。
- ・開花後、風を伴った降雨があると多発しやすいので、常発園や多発園では防風ネットなどの対策を行う。

(3)黒星病

- ・第1次伝染源である枝病斑を剪除する。
- ・果実での発病は5月以降にみられることが多いが、本病菌の潜伏期間は長いことから、5月前でも約2週間間隔で薬剤防除を実施する。
- ・本病は日照、通風不良園で発病が多いことから、整枝、剪定等により通風を改善する。

(4)アブラムシ類

- ・発生が多いほ場では、他の病害虫の発生状況も考慮して薬剤を剪定して防除する。
- ・薬剤防除を行う場合は、枝の先端まで薬剤が行き渡るように散布する。

(5)コスカシバ

- ・幼虫の食入部位からは虫糞が混じった赤褐色の樹脂が排出される。見つけ次第ノミなどで削り取り、幼虫を捕殺するか、上から金槌等で叩いてつぶす。
- ・樹勢が弱ると加害されやすいので、肥培管理につとめる。
- ・成虫の発生する5月までに交信攪乱剤を用いて成虫の産卵を阻害することも有効である。

ー農薬の適正使用についてー

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム